

## ○ 情報に関する学習を行う際の留意点は何か。

学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2には、次のように示されている。

- (8) 情報に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。

このことについて、『学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』では、次のように解説されている。

- 現代社会は情報化の時代と言われている。多様で大量な情報が、瞬時に世界に広がる。また、身の回りには様々な情報があふれ、それらを適切に処理し活用する資質や能力及び態度の育成が求められている。こうした時代の中、この時間において、横断的・総合的な課題としての情報を扱い、その課題を問題の解決や探究活動の過程を通して取り組んでいくことには大きな価値がある。
- 問題の解決や探究活動に取り組むことを通してとあるように、電話、FAX、コンピュータ、インターネットなどの情報手段の活用の必然性が伴う学習活動を行うことが重要であり、その過程において、情報手段の操作の習得が自然と行われるようにすることが望まれる。
- 関心が集まりがちなのは情報の収集や発信にかかわる技能的側面であるが、問題の解決や探究活動の過程においては情報の整理がより重視されるべきである。すなわち、入手した情報の重要性や信頼性を吟味したり、比較・分類したりする。さらには、複数のものを関連付けたり組み合わせたりして新しい情報を創り出すような考えるための技法を、実際に課題を解決する過程を通して身に付けさせたい。

これらのことは、「情報に関する学習」が、コンピュータ・リテラシーなどの技能の習得を目指すのではなく、児童を取り巻く情報化社会における課題を解決する学習を進めることが大切であることを示している。

### <ポイント>情報が日常生活や社会に与える影響を考えさせるとは

- 1 問題の解決や探究活動の過程において、情報手段の進化によって日常生活や消費行動がどう変化したか、社会がどのように豊かになったのかといったことを取り上げる。
- 2 日常生活にどのような新しい危険や困難がもたらされたのか、社会にどのような新しい問題が起こっているのかを取り上げる。
- 3 児童自身が情報を収集・整理・発信する活動を通して、情報社会の一員として生活していることについての自覚を促し、発信情報に責任をもつなどの意識をもたせる。